

シカ捕獲のための首用くくり罠

・効果的で使いやすい技術の開発(研究機関との共同開発)※静岡県大橋上席研究員の開発技術

(従来) 獣道に罠をしかけて待つ
(新技術) 餌で誘引して捕まえる

引きバネ

バケツの縁にセットした、くくり輪(ワイヤー)

餌を食べようとして、底にセットされた蹴り糸に触れると、罠が作動

バケツの底に誘引餌

採食

2016-01-20 04:25:49

作動

2016-01-20 04:25:49

平成29年 1月31日

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター



シカ捕獲ハンドブック

くくりわな編



静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター
イノシシシカ研究チーム

2016年3月 改訂版

目次

I. 序章	
1. はじめに	2
2. 捕獲の区分	3
II. 準備編	
1. わな免許を取得する	4
2. くくりわなのルールを知る	5
3. わなを選び準備する	6
おすすめ横ばねガイド式「空はじき知らず」 新しいわな「誘引式首用くくりわな」誕生！	7
4. 必要な道具を準備する	9
	10
III. 実践編	
1. わなで効率よくシカを捕獲するための3か条	12
2. 捕獲の進め方	13
3. 場所を選ぶ	13
4. わなを設置する	14
5. わなを見回る	25
6. 捕ったシカを止めさす	26
IV. 応用編	
1. 捕獲の効率を高める方法	31
2. わなの製作（消耗部分）やメンテナンス	32
3. 保定具の製作	37
V. 参考	
1. シカの痕跡の判別方法	38
2. 捕獲記録票・捕獲個体記録票 性・年齢判別、妊娠の確認方法	39
	40

▼新しいわな「誘引式首用くくりわな」誕生！

静岡県では、これまでの研究成果から1.設置場所を選定する技術が不要、2.クマの錯誤捕獲回避可能、3.地面凍結時でも設置可能、といった足くくりわなの課題を克服する誘引式首用くくりわなを新たに開発しました。（「静鹿（しずか）ちゃん」として製品化）



▲「誘引式首用くくりわな」で捕獲した二ホンシカ

草食動物用のハイキューブ（成形乾草）でシカを餌付けて捕獲すること、また角がないメスの成獣や幼獣が捕獲対象となるため、難しい技術や力が必要なく、初心者でも取り組み易いのが特徴です。

このわなは、くくり輪の直径が12cmを超えて掛けることが禁止されている（規制緩和されていない）地域では使用できませんのでご注意ください。静岡県内では、2015年4月から有害捕獲や管理捕獲において使用が可能（ただし狩猟での使用は禁止）となっています。

問い合わせ先：有限会社 オーエスピー商会

TEL：097（551）2205

FAX：097（551）0507

メール：info@osptrap.co.jp

H P：<http://www.ostrap.co.jp/>

▼誘引式首用くくりわなの設置・捕獲手順

手順（1）

シカ道近くの立木の根元に針金や梱包用のバンドなどで動かないようしっかりとバケツを固定する。このとき、シカに横から顔を突っ込まれないように少しバケツが斜めになるようにする。**ポイント！**



手順（2）

地上から170～180cmくらいの高さに釘（立木に打っても良い場合）か針金やロープ+S字フックを取り付けて引きばねを掛ける



手順（3）

立木に繋いだワイヤーをビニール被膜の針金等で腰高付近に軽く留める。このとき、ワイヤーは1周のみ回して取り付ける（シカが掛かったときに絞まらずに落ち、動けるため）。**ポイント！**



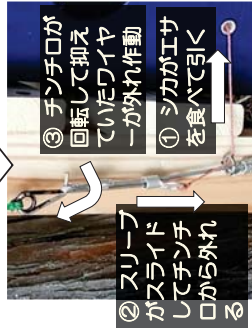
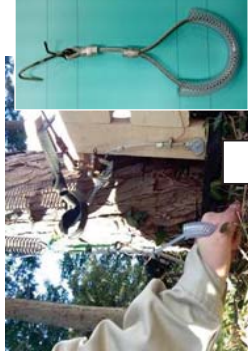
手順（4）

バケツの底にハイキューブを5個程度入れ、バケツの縁のガイドにワイヤー（締め付け防止金具:36cm以上に調整）をセットする。



手順 (5)

引きばねを引っ張り張りトリガー（チンチロ口仕掛け等）をセットする。このとき写真のような補助具を使うと引いたばねを足で踏み抑えることで両手が使えるようになり、チンチロ口仕掛けを設置するのが楽になる。



手順 (6)

わなを設置した状態でもシカが安心してバケツの中の餌を食べるようになるまで馴らすため、わなが作動しないようにばねを針金等で固定する。



手順 (7)

標識を他の人が気づきやすいように設置する。



手順 (8)

近くの地面にもハイキューブを撒き、バケツの中のハイキューブとともに数日経過を観察する。

手順 (9)

地面に撒いたハイキューブが食べられる日が2, 3日続いた、あるいはバケツの中のハイキューブを食べたときは、餌をバケツの中だけにしておわなを作動するようにする。
ポイント!

誘引状況に応じた対応について

10日～14日経ってもハイキューブを食べない場合は、わなの設置場所を別の場所に移動するか、時期をずらす。
(例えば誘引効果が高まる降雪・積雪後に設置する)

オスジカが餌付いてしまった場所については、餌を独占する傾向が強いことから、通り道等へ足くくりわなを仕掛けてオスジカを取り除いてから設置する。



エサ(ハイキューブ)

メモ

シカが森を食べ尽くしてしまう！ 地域が一体となった取組が求められています！

ニホンジカが個体数の増加と分布域を拡大し、全国で森林や農作物への被害が著しくなっています。このような中、箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールド、大阪府箕面市の箕面国有林においても、シカが樹木の皮を剥ぎ、下層植生を食べてしまう等の被害が発生しています。このため、森林の生物多様性の衰退が進み、このままでは下層植生のない裸地へ移行すると土壌流出や土砂災害等のリスクも高まることが危惧されています。

この森林に深刻な被害を与えているシカの被害を防ぐため、地域の行政や市民が連携し、一体となった取組が求められています。

！ 箕面の森林のニホンジカによる被害の現状 ！



森林内の低木や下草が食べられてしまいました。
ヤブを好む生き物が棲めなくなります。



植生を食べ尽くしてしまいました。
森林が消え、土壌の流出が心配です。

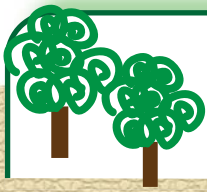


シカが食べない植生だけが残りました。
森林生態系の衰退が進んでいます。

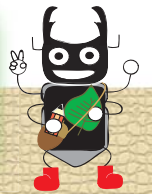


樹皮が剥がされてしまいました。
木が枯れてしまいます。





地域の関係者が一体となって対策に取り組んでいます



箕面国有林では、シカ被害対策を効果的に実施するため、当センターなど行政や市民などで構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会(事務局:NPO法人みのお山麓保全委員会)」において、下記の基本的な4つの取組方針を決め、一体となって対策に取り組んでいます。箕面森林ふれあい推進センターにおいては、個体数管理とモニタリングを担当しています。

① 個体数管理（捕獲）

シカを適切な生息数にコントロール。
当センターが主体となって実施。



くくり罠の設置



くくり罠で捕獲したシカ

② 防護柵の設置

大切な植生を守るための緊急避難的対策。
市民団体が主体となって実施。



市民団体が設置



柵の設置により
柵内の植生が再生

③ モニタリング

対策の管理目標として必要なため。
研究機関、行政、市民団体が協力して実施。



シカの生息数と森林植生衰退
の関係を調査



当センターで行った
GPS 装着個体の移動経路

④ 市民への広報・啓発

市民団体が主体となって実施。当センターにお
いても、森林被害と対策について普及活動。



生物多様性研究フォーラム
で当センターから報告



小学校の森林教室で
シカ害対策を学習

トピック

近畿中国森林管理局の「森林のギャラリー」で、シカ害の状況
や対策、ジビエ利用などの情報発信中です！！

